

第70回記念埼玉県美術展覧会 審査評

【第2部 洋画】

○総評

審査主任 おおき ひでほ 大木 英穂

新型コロナウイルスの影響により2年間の延期を挟み、出品者の動向を心配しながら迎えた第70回記念展でしたが、洋画部においては、69回展との比較では会員の出品者が若干減ったものの、一般出品者は若干増えて、合計1,164点と多くの出品がありました。

審査は11人の審査員により投票を繰り返し、526点の入選受賞作品を決定しました。特に感じられましたのは、一生懸命描かれているのはわかるのですが、入選までもう一步の作品が多くみられた点です。是非県展の会場へいらして勉強されますことをお勧めいたします。

また、これからの県展を牽引するであろう委嘱出品者からも元気のある力作を期待したいと思います。

○埼玉県知事賞

なに 「何をみつめて」 わたなべ ひろこ 渡辺 浩子

淡い暖色(ジョンブリアン)が同じ淡い緑系の画面の中に取り入れられています。母娘と思われる二人の視線の先は、一見同じように感じられますが、よく見ると若干のずれがあるようにも見えます。同じ屋根の下に暮らしながらも、「人は一体何を考えているのであろうか？」という、そんなモヤモヤした気持ちのようなものも画面に漂う、ある意味で哲学的内容も含まれている作品に仕上がっています。画面全体もしっかりと構成された秀作です。

○埼玉県議会議長賞

つばめよんごう 「燕4号」 たなざわ ひろし 棚澤 寛

春一番、初めて見た燕に喜び空を舞う少女、眼下に広がる赤城連山を背にした市街地を思わせる街並み。フोटリアリズムの表現を駆使し、上空から見える街並みを正確にとらえ、臨場感溢れる力作となっています。

○埼玉県教育委員会教育長賞

しゅうせきかいろう 「集積回路」 かめい ひろあき 亀井 広明

この作品を一目見れば、一目瞭然 “IC” そのものです。

しかし作者の意図するところはもっと深いところにあるように思えます。宇宙の光と影、膨張と縮小。遠くない未来の予兆を感じさせる策略が見え隠れしているような気がします。一つの方向にひたすら歩んできた秀作です。

○第70回記念賞

はいこうじょう かたすみ いくた しげお
「**廃工場の片隅**」 生田 繁夫

第70回記念賞に相応しい作品です。色調はブラウン系でまとめられた表現になっています。見過ごしてしまいそうな廃工場の片隅、いずれ朽ち果てるだろう現在を見事に描ききったベテランの技が際立った秀作です。

○埼玉県美術家協会賞

りゅう さいとう こうき
「**龍**」 齊藤 光希

背景はキッパリと白で、龍と鹿威しや稲などの古典的なモチーフが散りばめられ、直線的に切り取られ、切り絵のように再構成したような大胆さに面白さを感じます。

デザイン性の高い構成と色彩が魅力的で、強い意志も感じられ、その完成度からも楽しんで制作したことが想像できます。

高校生と聞き、まだまだ可能性のあるその新鮮な感性を、今後ますます生かしてゆくことを期待します。

○埼玉県美術家協会賞

「**トロイメライ**」 みつのぶ ゆきえ
光信 幸恵

題名のトロイメライとは夢・夢想という意味があります。ほぼ正方形に黄昏を想起させるような空と色彩対比が美しい海の青、紫、そして引き締める黄色。

対岸の街の灯りが現実性を、そして距離を感じさせます。

沈みゆく太陽か月の代わりに大胆な大きさの花弁。その花のために供えたようなワインやパインなどの供え物。それらは作者の夢想なのでしょうか。思わず引き込まれる感性の世界です。

○埼玉県美術家協会賞

「**ふるさとの山路**」 やまじ のざわ とみこ
野澤 登美子

下の約2/3の正方形大部分が地面で構成されています。登りの坂道はやがて見えなくなり空が明るくひらけています。

昔から美術や文学などでも、道は人生の苦楽やプロジェクトの行く手などの比喻とされてきました。この作品は構成的にも、抑えられた色彩的にも、土に従属され、この土の道、土の上の轍、表面にある大小の高低差などが何らかの意味を感じさせるものとなっているようです。描写力がそれらを支えています。

○埼玉県美術家協会賞

「**しあわせの春**」 おか あいこ
岡 愛子

美しく整えられた恐らくご自宅のダイニング、窓外の庭、早春の朝のすがすがしさと雅をも感じさせる清潔感いっぱいの美しい作品は、作者のタイトルそのものを表しています。

○さいたま市長賞

みずべ かとう おきむ
「水辺」 加藤 修

水辺の風景、とても魅力的な作品です。

葎の新芽と倒木、モチーフ選びも良いと思います。倒木に木漏れ日があたり、水に映る木々が美しい。水面の照り返しと倒木に映る柔らかな光の表現、新芽が出て水が温む表現、澄みきった空気さえも感じさせる作品です。観察力とデッサン力で作者の思いがにじみ出ています。

○さいたま市議会議長賞

き ひるさ とつか ふうこ
「気まぐれな昼下がり」 戸塚 楓子

作品を一見しただけで、作者の力量が感じられました。具象的なモチーフを上手く抽象化しており、凝ったマチエールにも工夫が見られます。白・黒・黄を基調とした色のハーモニーも音楽的で、題名の「気まぐれな昼下がり」に相応しい、明るく楽しい雰囲気創造に成功しています。しっかりした構成力に裏付けられた、作者の感性が光る魅力的な作品です。

○さいたま市教育委員会教育長賞

ふっかつそうだんちゅう よしかわ ともあき
「復活相談中」 吉川 具明

赤、黄、緑といったフィルターを通して世界を見た時、そこには従来とは全く違った映像美が出現します。絵画の本質は自己の視覚（フィルター）を通して、既知の筈の世界構造を新たな秩序構築へと転換し、色と形に定着させる事ですが、吉川さんの作品はまさしく絵画表現の本質に寄り添ったもののように思えます。さて、作者の狙いが今後どのように展開し、新たな美を私たちに見せてくれるのか、大いに楽しみなことではあります。

○FM NACK5賞

なつ に たちだ けいこ
「懐かしむⅡ」 館田 恵子

確かなデッサン力と統一された色調の品格ある作品です。昔が偲ばれるような撫子柄の紺の浴衣に赤い帯のコントラストが美しい。

自画像と思われる穏やかな女性の表情に凛とした作者の姿勢が感じとれます。これからの画業に期待いたします。

○朝日新聞社賞

あさ すずき せいいち
「朝」 鈴木 精一

親牛のオッパイをたっぷりと飲んだ子牛が、きょとんとした目をして作者を見つめています。ここでは、安全で穏やかなひと時が流れています。

画面からは温かい、愛情深い目が子牛に注がれているのが感じられます。作者は同じモチーフをストレートに、同じ色調で自然描写して描いていますが、不思議な魅力ある作品となっています。一貫してこの牛をテーマに追求しているからでしょう。

○NHKさいたま放送局賞

「たんぽぽの綿毛と」 ^{わたげ} 筒井 ^{としこ} 敏子

モデルの少女を取り囲む、春の清々しい風を感じ、また色彩も非常に穏やかな品格を感じる見事な作品です。非常に高いレベルの中での受賞ですが、今後の活躍が楽しみな作家のひとりです。

○共同通信社賞

「ねぶた祭り跳ねる」 ^{まっ は} 白石 ^{しらいし ひろこ} 広子

祭の華やいだ時間のある一瞬を切り取り、水・水彩絵具・紙の組み合わせの妙を最大限に生かして見せた佳作です。お祭りの衣装に着飾った二人の少女の佇まいはこよなく美しく、あたかも今、眼前に展開しているような臨場感を醸し出しています。何よりこの作者は水を操ることに長けた、信じられない程の技量の持ち主であり、この絵肌の美しさに魅了されます。お祭り衣装と足もとのシューズとの組み合わせには、作者の意図が見え隠れします。

○埼玉新聞社賞

「小春日和」 ^{こはるびより} 山本 ^{やまもと たまき} 環

実際にモデルを見て描いている様子が見られ、モデルの人柄まで描き込んでいるような作品です。表情も自然で、色も濁らず深みのある重ね具合で暖かな感じの水彩画です。

カーテン、ソファ、クッションのピンクも抑え気味で人物を引き立てる色の統一感があり、構図も顔から腰、手へと視線を誘導し量感を感じさせる好作品です。

○産経新聞賞

「転生」 ^{てんせい} 大海 ^{おおうみ} 順子 ^{じゅんこ}

鋸の独特なモチーフを中心に卓越した構成力を駆使しながら、空間性豊かな画面を実現しています。柔らかなグレッショトーンの中に、強烈で印象的な有彩色を効果的に配することによって生じる緊張感と、鑑賞者の凝視を誘う上手さを感じる作品となっています。錆色の形態を象徴的に配するとともに、控えめに使用するコラージュが独特なスマートさを現出していると思います。作家の研ぎ澄まされたセンスが横溢する秀作です。

○埼玉県美術家協会会長賞

「透明な記憶」 ^{とうめい きおく} 山本 ^{やまもと ともゆき} 智之

落書きと思われる壁の前に立つ一人の少女、黄色と青に塗り分けられ、ところどころ割れたガラス窓のある電車、遠くにはぼんやりと灯る街灯。その下に飛び出し注意の意味であろう看板。見た人に幼き時の出来事を懐古させ、遠い記憶の中に引き戻してくれる心あたたまる不思議な秀作です。

○高田誠記念賞

やまあい みずうみ 「山間の湖」 いしい ゆりこ 石井 百合子

静かに深く透き通る水面に水中から跳びあがり、ホバーリングしている清流の宝石ともいわれる1羽のかわせみ。白く泡立つ波、早朝の湖面に見られた直前の一連の情景を連想させる心やわらぐ作品と思われます。